

# 高等学校国語教育の基礎研究 I

——教科書分析を中心に——

柴 山 尚 枝  
橋 本 晴 美

## 序 章

(一)

国語教科書は、国語の学習を進めていくうえで、非常に重要な役割を果している。それにもかゝらず、教科書についての研究は、きわめて少ない。

わたくしたちは、現代の高等学校国語教科書の性格が、どのようなものであるかを、少しでも、明らかにしてみたいと思う。この目標を、いくらかでも達成するために、国語教科書の設問を、分析・検討することにした。

昭和三十六年度用、高等学校国語教科書（総合）、最新版二十一種、六十九冊の中の設問を、カード（パンチカード）にとり、共同でそれらを、分析・検討することにした。

これらの設問が、必ずしも、すべて学習の対象とされているとはかぎらない。また、これらの設問だけが、国語教育のすべてだとは決して考えてはいない。しかし、教科書の設問を、検討することによって、これらの設問の中に、どのような学習の可能性が、潜んでいるかを、明らかにし、そこから現代の国語教育の性格の一端を、はあくすることは、意義あることだと考える。

国語教科書の設問を、分析・検討することによって、  
一、現行の教科書の中で、設問はどれくらいの数量にのぼっているか。

○ 学年別

○ 教科書別

○ 教材のジャンル別

にみた場合、どのようになっているか。

二、これらの設問の中で、どのような学習活動が、要求されているか。

三、これらの設問が、

「読むこと」の学習、

「書くこと」の学習、

「話すこと」の学習、

「聞くこと」の学習、

の四領域の中で、どのように位置づけられ、関連づけられているか。

といったことを明らかにし、国語学習の構造や、しくみ、中心課題を明らかにしていきたい。

(一)

数量からみた、設問の実態

学年別の設問総数をみると、

一年 〓四三六二〓

二年 〓四二二一〓

三年 〓三七八二〓

で、全体総数、〓二二六五〓となっている。

教科書の単元構成には、いろいろの形があるが、数の上から考えてみると、一学年につき、平均大単元数は、〓十二〓、一大単元に平均〓三〓の小単元が組まれている。したがって、一小単元に平均〓五〓あまりの設問がつけられていることになる。

設問を分析するにあたって、

「読むこと」の学習に関する設問、

「書くこと」の学習に関する設問、

「話すこと」の学習に関する設問、

「聞くこと」の学習に関する設問、

「文法学習」に関する設問、

の五つの領域に分類した。

そして、それぞれの領域の中で、さらに細かく、分類項目を設けて、分類した。それらの項目は、それぞれの章で、詳しく述べる。

ここでは、五つの領域の総数を教科書別に記すにとどめる。

(第一表)

設問を検討する場合、教材との関係が、非常に大きな意義をもつように思われる。そこで教材を、(一)詩歌 (二)日記、手紙、隨筆、隨想、(三)小説、物語、四戲曲 (四)論説文、(五)記録、報告文、(六)講演(筆記) (七)漢文、の八つのジャンルに分けて検討を進めたい。

文法単元は、これらのジャンルとは別に、取り扱うことにした。ジャンル別にみた、設問傾向は、つぎのとおりである。

(第二表)

つぎに、設問を、現代文教材、古文教材、漢文教材、文法教材に分けると、つぎの表のようになる。

(第三表)

以下、章をおって、

「読むこと」の学習に関する設問、

「書くこと」の学習に関する設問、

「話すこと」の学習に関する設問、

「聞くこと」の学習に関する設問、

「文法学習」に関する設問、

について、検討を進める。

## 第一章 「読むこと」の学習に関する設問

全設問の中で、「読むこと」の学習に関連した設問が、非常に大きな位置を占めている。「読むこと」に関連した設問の総数八一—四六四Ⅴ、学年別にみると、

一年 八三八六八Ⅴ

二年 八三九〇八Ⅴ

三年 八三六八八Ⅴ

となっている。

また、現代文に付けられた設問は、八七二五八Ⅴであり、古典（日本文学）に付けられた設問は、八三〇六八Ⅴ、漢文に付けられた設問は、八一—三八Ⅴとなっている。

「読むこと」に関連した設問を、分析するめやすとして、つぎのような分類項目を設けた。

（分類項目四十五）

以上のような、四十五項目によって、それぞれの設問の分類を進めた。なお、一つの設問の中で、二つ以上の分類項目にわたるもの、（この話の要旨を整理し、ここに描かれた倭建命の性格について考えよ。好学社・三年倭建命）は、設問の数を、項目数と同じに数えた。

「読むこと」の学習に関する設問を、大きい分類基準によって、分類すると、作品研究に関するものが、最も多く、その中でも「表

現」面からの設問が、多くなっている。

分類項目を通してみた設問数を、表に示す。

## 第四表、総数表

### 第五、六、七表 学年別総数表

分類の小項目についてみると、「特定表現の説明、解釈」、「ことからの要点」をたずねるもの、「登場人物の関係や、ものの見方、考え方」を問うもの、「筆者のものの見方、考え方」を問うもの、「作品の表現や、論旨に対する感想、意見」を問うものなどの設問が多いが、これらの設問は、教材との結びつきが密接で、この小項目だけを検討の対象とすることはむづかしい。そこで、これらの小項目と教材との関係を見るため、教材を、(一)詩歌、(二)日記、隨筆、(三)小説、物語、四戲曲 (四)論説文、(五)記録・報告文 (六)講演 (筆記) (A)漢文と分け、これらと設問との関係を検討することにした。

## 第一節 文学教材における設問

ここで、文学教材として、とりあつかうのは、(一)詩歌、(二)日記、手紙 隨筆、隨想、(三)小説、物語、四戲曲である。漢文は、別項目として取り扱う。

文学教材に付けられた、「読むこと」の学習に関する設問数は、八五六〇Ⅴである。ここでは、(一)詩歌、(二)日記、隨筆、(三)物語、小説、四戲曲の順に検討を進めたい。

(一) 詩歌、(短歌、俳句、詩、歌謡)

設問総数八二三八一V そのうちわけは、

現代詩歌八八八四V

古典 八四九七V

全体をとおしてみると、詩風・歌風などの、作品の特色や、表現の技巧、表現の手法、表現の形式、表現の効果など、詩歌表現の特殊性についての設問や、作品のもつ情緒・情景、時、場面、ふんいきなどの情的理解を要求する設問が比較的多い。また、作品についての知的、情的な理解の上になつて、作者のものの方、考え方、作品の主題などはあくを要求する設問もかなり多い。さらに、作品を鑑賞したり、批評することを要求した設問が、全体の中で二番目をしめていることは、注目すべきことである。

つぎに、現代詩歌と古典の詩歌とに分けて考えてみる。

現代詩歌の場合について、設問数の多い順にあげると、(八・V

が設問数)

(1) 情緒、情景、時、場面、ふんいきなどについての設問八九五V

○表現の細部について、次の問に答えよ。

「しろがねのふすまのかべ」とはどういう情景を写しているのか。  
(好学社一年、千曲川旅情の歌)

○これらの短歌によまれた季節はいつごろか。前の詩や俳句の季節との前後も考えてみよう。  
(好学社一年・三里塚牧場)

(2) 特定表現についての説明、解釈を求めもの八八五V

○「牡蠣の殻なる牡蠣の身」は、何を象徴したものか。  
(好学社三年・牡蠣の殻)

○「自然のこの祝祭」とは、どういうことか説明せよ。

(好学社一年・秋の絵すがた)

1、ひたぶるに汽車走りつつ 2、おもおもと雪せまりつつ

3、西ぞらにしづかなる雲たなびきて 4、……

(好学社一年・旅と文学)

(3) 作品(内容、表現)に対する読者の感想、意見をたずねるもの

八七九V

○特に感銘深い句について、批評、鑑賞してみよう。

(文学社一年・樹陰)

○この中から好きな作品をあげ、どういふところがよいのか、互に話し合おう。また、その歌人の作品をもっとたくさん読んでみよう。  
(大原二年・短歌)

(4) 作品の特色(作風、歌風、表現の特色)などについての設問

八七六V

○よく読み味わたりえて、それぞれの詩の特色について話しあい、それぞれの詩の主題を指摘せよ。(好学社三年・名詩選)

○それぞれの俳人の句風の特色を調べてみよう。  
(角川一年・近代俳句)

(5) 表現の形式(韻律・句切れ……)についての設問八七二V

○この五首は連作の形式である。短歌において連作はどんな特色をもつか。  
(好学社一年・三里塚牧場)

○朱の小箱(室生犀星)について、次のようなことを調べてみよう。

○形式(定型詩、自由詩および文語詩・口語詩の別。五七調、七五調などの問題)またはそれが主題や情調とどういふ関係があるか。  
(昇龍三年・近代詩抄)

(6) 筆者のものの見方・考え方などについてたずねるもの八六九V

○全体を通じて、作者の気持はどのように変化しているか。

(好学社・一年・旅と文学)

○作者は、自然と人生とについて、どんな見方をしているか。

(好学社・一年・千曲川旅情の歌)

(7)表現の巧みなところ、表現の効果などについてたずねるもの

△六〇▽

○この詩には漢語がかなり多く用いられているが、表現効果の上から、その意義を考えてみよう。(好学社・二年・小出新道)

○一、二、四行の、それぞれの終わりに、「ながれ」を用いたのは、どういう効果をあげているか。(好学社・二年・整のうへ)

(8)作品の主題についての設問△五九▽

○この詩の主題は何か。(好学社・一年・秋の絵すがた)

となっている。このように、現代詩歌においては、詩歌のもつ情緒・情景を中心として、豊かな想像を働かせながら、作品の特色や、表現の形式などを理解し、ことばを表現全体の中で理解し、主題をとらえ、作者のものの方、考え方などをはあくする、さらに、鑑賞、批評の学習へとすゝめていくことが、要求されている。なかでも、鑑賞、批評に関する設問の占める割合が大ききことは、重視すべきことである。

つぎに、古典の詩歌の場合について、設問数の比較的多いものをあげてみると、

(1)作品の特色(歌風・句風……)についての設問△八九▽

○前に学んだ新古今和歌集の歌と比較し、内容や、表現のいろいろの面から相違するところを調べてみよう。

(好学社・三年・春のゆくへ)

○万葉集中の代表的歌人についてその歌風の特徴を比べてみよう。(教図研・二年・熱田津に)

(2)作品、作者についての文学史的研究を要求するもの△六〇▽

○与謝蕪村の俳諧史上の位置について調べてみよう。

(好学社・二年・春風馬提曲)

○「新古今和歌集」の文学史的位位置について考えてみよう。

(文学社・二年・みよし野)

(3)作品に対する読者の感想、意見をたずねるもの△五五▽ (鑑賞・批評も含む)

○「夕ぐれ」ということばで、結んである歌が、五首あるが、これらの歌を比較して鑑賞しよう。

(續文堂・三年・新古今和歌集)

○「病雁」の句と「小えび」の句とは、どちらがすぐれているだろうか。また、その理由を述べてみよう。

(角川・二年・未來抄)

(4)表現の形式、韻律、句切れ……などに関する設問△八四▽

○これらの歌は、形式上どのように分類されるか。

(好学社・三年・夕浪千鳥)

○短歌は五句より成り、五七五七七音と続く形式をもっているが、これらの歌論はどういう形式をとっているか。

(好学社・一年・舞へかたつぶり)

(5)情緒、情景、時、場面、ふんいきなどについての設問△二九▽

○これらの歌を読んで感じられる、ふんいきは、一般にどういふものか。さきに学んだ近代短歌の場合とも比べてみよう。

(好学社・二年・天の香具山)

○「下京」の句は、どのような情景をよんだものだろうか。

(角川・二年・去来抄)

(6)表現の巧みなところ、表現の効果についてたずねるもの

△二九V

○体言止めの歌は、どんな表現効果を持つだろうか。

(三省堂・二年・雪の玉水)

○「万葉集」の枕詞使用の意義を考えてみよう。

(文学社・三年・豊旗雲)

以上のように古典の場合、特に多いのは、作品の特色、作者や作品の研究に関するものである。古典の教材における、最も大きな特色は、まず、文学史的な意義、位置、表現の特色、表現の技巧、表現形式などの設問が、現代詩歌の場合より、大きな位置をしめていることである。また、古典の詩歌では、内容を理解するための、口語訳や、文語文法もかなり重視されている。ここでも、鑑賞、批評に関する設問が多い。

詩歌教材の場合、鑑賞、批評の学習が重視され、内容の読みとりだけでなく、学習者の感想や意見が、尊重されている。

現代詩歌では、情的把握を中心とした設問が多く、古典の場合には、比較的知的理解を中心としたものが多い。しかし、古典の場合も情的把握がみがさされているわけではなく、情意性を主として、詩歌を理解し、一方ではそれを助ける意味で、文学史的な背景や表現の手法などの、知的理解に関する設問も、もうけられている。

現代詩歌、古典の詩歌の設問傾向をA第八表の①Vに示す。

学年別に、これらの設問を検討したが、教科書によって、単元の

組織もちがいがい、特に、著しい傾向をみることはできなかった。ただ、古典の詩歌が一年に少なく、二年、三年ではほぼ同数あるため、古典詩歌であらわれた傾向が、二年三年にやや強いようである。

(7)日記・手紙・隨筆・隨想などの場合

設問総数△二〇九五V

現代文 △一一九五V

古文 △九〇〇V

全体をとおしてみると、ここでも、詩歌教材の場合にみられたように、鑑賞学習が重視されている。ここでは、大きくいって、二つの傾向がある。日記、隨想などのように、人生論的なものを中心にしたもの、詩的要素のつよい隨筆などの場合とである。

前者は、筆者の人生観、自然観を読みとり、さらに、それに対する意見や感想をたずねるものや、そこに述べられたことがらを、自分の問題として考えたり、反省したりすることを要求する設問が多く、後者の場合、表現美や、表現の巧みさ、作風などについての設問が多い。しかし、この二つの傾向を、全く切りはなすことはできない。互に密接な関係をもっているところに、このジャンルの特殊性があるように思う。

つぎに、現代文、古文に分けて検討をすすめた。

現代文教材の場合

設問数の多いものからあげると、

(1)特定表現の説明や、解釈を要求する設問△二六二V

○「形式論理の鉄則は、矛盾律である。」とはどういう意味か。

(續文堂・三年・隨想・時間の審判)

○十二月二十七日の「腹の底から出る力強い声の愉快な混交が、松の林のうねりをこえて、遠く近くきこえてくる。」とは、どういふことか、わかりやすく説明しよう。

(續文堂・一年・日記の意義・しずかな流れ)

(2)「ことがら」の要点をまとめたり、解説したりすることを、要求する設問八一七四▽

○芥川龍之介の言う天才と、凡人との相違をわかりやすく説明せよ。  
(好学社・三年箴言集)

○内容から日記の種類を分け、それぞれの特色と意義をあげよ。

(好学社・一年・日記雑話)

(3)筆者のものの見方、考え方をたずねるもの八一六五▽

○流れ星について作者の関心は、どういふ方向にむけられているか。  
(續文堂・一年・流れ星)

○これらの日記を通してみて、一葉が真剣に取り組んでいることは何であらうか。  
(三省堂(土井)・一年・塵中日記)

(4)作品に対する感想、意見をたずねるもの八一七三▽

○この手紙を読んで、どんな筆者を想像するか考えよう。

(續文堂・一年・伊豆だより)

○この手紙がどうして人の心をうつのか考えてみよう。

(教図研・二年・手紙三通)

(5)学習者の反省や、自覚をうながすもの八一六二▽

○季節感のこもった動植物を、自己の周囲から、それぞれ数種類ずつあげてみよう。  
(大修館・一年・夏の花と虫)

○それぞれの教えを、われわれの具体的な問題に適用して考えてみよう。  
(大修館・三年・西哲のことは)

ついで、登場人物の性格、ものの見方、考え方などについての設問、表現の巧みなど、表現の効果、表現の特色などに関する設問の占める割合が大きい。

日記や手紙、随筆随想などの教材の場合、筆者のものの見方や考え方が重視される。筆者のものの見方、考え方をとらえたり、作品の内容を理解するために、特定表現の説明や解釈をし、「ことがら」の要点をまとめ、登場人物についての考察をすることなどが、要求される。また、単に、筆者のものの見方や、考え方を読みとるだけでなく、その作品に対する学習者の感想や意見などを求める設問も多い。また、そこで学んだことがらをもとにして反省したり、自分の問題として考えたりすることを要求する設問など、学習者に主体性をもたせた設問もかなり見られている。

古典教材の場合、現代文教材にまして、

(1)筆者のものの見方や考え方を問う設問の割合が大きくなっている。八一五一▽

○それぞれの考え方について比べてみよう。

(文学社・二年・先哲のことは)

○「徒然草」をおして、兼好法師の人物(性格・趣味・教養など)を考えてみよう。(教図研・一年・つれづれなるまゝに)

(2)特定表現の説明、解釈などを要求する設問八一〇四▽

○「景清と箕尾谷が、しころ引きをする。」とはなんのことか調べてみよう。そうして、これを見て、「座中が一同にどっと笑った。」のはなぜか考えてみよう。(續文堂・三年・道話)

○東に三尺余りの庇をさして柴折りくすぶるすがとす(三五ページ)これは具体的に何のための設備なのか。

(大修館・二年・日野山閑居)

(3) 作品に対する感想、意見をたずねるもの。八五五V

○この紀行の中で特に印象に残ったところはどこか。また感銘の深かった句はどれか。それらをあげて感想を述べ合おう。

(筑摩・三年・野ざらし紀行)

○印象の深かった俳句について批評、鑑賞してみよう。

(文学社・二年・俳句と俳文)

(4) 表現の巧みなところ、表現の効果についての設問八五一V

○作者の感覚の鋭さやこまかい心の動きを示しているところを指摘してみよう。

(文学社・三年・古代抒情)

○「あらたふと青葉、若葉の日のひかり」の句の初案は「あらたふと木の下やみの日の光」である。改作によってどういう表現効果を生じたか考えてみよう。(好学社・二年・おくのほそ道)

(5) 「ことがら」の要点についての設問八五〇V

○「をりふしの移り変はるこそ」から、この当時の年中行事を抜き出して、現在の風習と比較しよう。(續文堂・一年・徒然草)

○本文には、当時の交通状況、風俗、迷信、などが、どのように現われているか。(角川・三年・土佐日記)

このように現代文の場合とほとんど同じ傾向がみられる。現代文の場合とちがっているのは、表現の巧みなところ、表現の効果に関する設問が、比較的多いことと、作品の内容を把握するための語釈、口語訳、文語文法、文学史的問題、作者、作品に関する設問が多くなっていることである。また、表現上のさまざまなことについてたずねる設問が多い。

しかし、現代文教材ほど、学習者に主体性をもたせた設問は多く

ない。これは、古典教材の詠解が容易でないため、まず、詠解を中心として、設問が設けられているためであろう。

現代文教材、古文教材の設問傾向は、第八表②のとおりである。

(1) 小説、物語教材の場合

設問総数八二四九二V

現代文 八一三七七V

古文 八一一一五V

小説、物語教材の場合の設問を、全体的にみると、この教材の性格上、登場人物を中心として、作品を分析したり、特定表現の説明、「ことがら」の要点をとらえることなどによって、内容をはあくさせようとするものが多い。また、表現の巧みなところや、表現の効果、作品の特色に関する設問、文体に関する設問など、作品を讀みこなしていくうえでのさまざまな問題が、設問の中に提示されている。内容を讀みとり、作者のものの見方や考え方を明らかにすることを要求する設問や、鑑賞、批評を要求する設問なども多い。つぎに、現代文教材について考えていきたい。設問数の多いものからあげると、

(1) 登場人物の関係、心理、性格、ものの見方、考え方などについての設問八三四八V

○青年画家に対するわたしの気持の推移する経過をたどってみよう。(續文堂・一年・生れ出づる悩み)

○内容の心理のうつりゆくさまを調べてみよう。

(續文堂・一年・鼻)

(2) 特定表現の説明や解釈を求める設問八一五〇V

○「自分の中の人間」(四九ページ三行)とは何をさして言っているか考えよう。(續文堂・二年・山月記)

○「はればれした心持」とあるがなぜか、考えてみよう。(續文堂・一年・鼻)

(3)表現の巧みなところ、表現の効果などについての設問八二九V

○観察のこまやかさ、表現の確かさを味わってみよう。(續文堂・一年・城の崎にて)

○この小説の中で、描写のすぐれていると感じたところはどこか。(續文堂・二年・外国文学を読む「孔乙己」)

(4)作者の性格、ものの見方、考え方などについての設問八八四V

○漱石の人生観や、芸術観、文学観を考えてみよう。(三省堂(土井)二年・草枕)

○詩人や画家の使命を作者はどのように考えているか、考えてみよう。(大原・三年・草枕)

(5)作品に対する読者の感想、意見をたずねるもの八七九V

○悟浄のこういふ「生き方」の追求そのものについてどう思うか話し合ってみよう。(三省堂(土井)三年・わが西遊記)

○この小説のおもしろさは、どういふ点にあるか、考えてみよう。(三省堂(土井)三年・鼻)

(6)「ことがら」の要点の説明を要求するもの八七三V

○ツェリアンが、病人を助けることによって、神の国へ召されたのはなぜか。(好学社・三年・聖ツェリアン物語)

○最後のところで、西行の歌が思い出されたわけを考えてみよう。(好学社・二年・葦の門)

(7)教材に関連した作品を読むよう指示したもの八六四V

○できれば杉田玄白の「蘭学事始」をも読み、知識を獲得することの不自由であった時代の先人の努力をしのぼう。

(好学社・一年・わたしたちの勉学時代)

○中島敦の中国に題材を採った他の作品、「李陵」「弟子」「名人伝」などを読んでみよう。(文学社・三年・山月記)

(8)主題に関する設問八六二V

○この小説の主題をどうみたらよいか。(續文堂・二年・美しい村)

(9)作者、作品、文学思潮などについての設問八五七V

○「たけくらべ」の全文を読んで、この作品の書かれた環境や時代についても調べてみよう。(續文堂・三年・たけくらべ)

○できれば、私小説のことを調べてみよう。(三省堂(土井)三年・虫のいろいろ)

小説、物語教材の場合、登場人物を中心に、読解を進めようとする設問が、三割ちかく占めている。登場人物を中心に、作品研究を進めようとするのは、小説や物語などの性格上、当然のことといえる。また、表現の巧みなところや、表現の効果などについての理解を深め、作者のものの見方、考え方はあくし、作品のテーマをとらえることは、小説の読解に欠くことのできないことがらである。鑑賞や批評が重視され、これに関する設問も多い。また、作品を読んで、作者のものの見方、考え方、作品のテーマなどから、よびさまされた問題意識を、学習者のもの見方、考えたり反省したりすることによって、学習者のもの見方、考え方を深めることをめざした設問もある。

古文教材について考えてみると、ここでも、現代文の場合の傾向

と、あまり大きな差はみられない。

(1)登場人物の關係、ものの方、考え方などについてたずねるもの  
の八一〇V

○この文において倭建命の運命が、悲劇的であることを示す部分を調べてみよう。  
(續文堂・三年・倭建命)

○道具の氣持を深く表わしているところをあげてみよう。

(文学社・二年・菅原のおとど)

(2)特定表現の説明、解釈を要求する設問八一〇〇V

○「まことにこそ、さおはしますめれ。」とは、だが、どういふ意味で言ったことばか。(三省堂(土井)・二年・藤原道長)

○義仲が巴に向かつて、「おのれは女なれば……」など言はれんこと、口惜しかるべし。」と言ったことばは、義仲のどんな氣持から出たものだろうか。(筑摩・二年・木曾の最期)

(3)作品に対する読者の感想や意見をたずねるもの八一七一V

○この部分でもっとも涙をさそわれるのはどこだろうか。

(續文堂・三年・馬方三吉)

○この文章を読んで、おもしろかった所をあげてみよう。

(三省堂(土井)・一年・つばくらめの子安貝)

(4)表現の巧みなど、表現の効果などについての設問八六七V

○この文の描写のすぐれている点を取り出してみよう。

(大原・二年・雨月物語)

○この文には江戸時代の口語が使われ、しかも、すべて会話によつて筋がはこばれているが、それがどんな効果をあげているか考えてみよう。  
(大原・二年・近世の小説)

(5)作品の特色、(表現の特色、作風など)に関する設問八六三V

○西鶴、秋成、一九の作風について比較してみよう。

(大原・二年・東海道中膝栗毛)

○説明的な記述、教訓的な要素、その話の結び方などの観点から、前の「今昔物語」の話と比較してみよう。

(三省堂(土井)・一年・児の搦餅するに空寝したること)

ついで 文体に関するもの、文語文法に関するものが多く、文語文法に関する設問総数は、八一〇六Vである。ここでも、他の古典の場合にみられたように、古典読解のための理解を中心とした設問が重視されている。反面、現代文でみられたような、学習者の問題意識を重視する傾向はほとんどみられない。

小説、物語教材の全設問傾向を表に示すと、第八表③のようになる。

四戲曲教材の場合

設問総数八五九二V

現代文 八二八四V

古文 八三〇八V

設問は、登場人物の關係や、ものの方、考え方などに関するものにかたより、全設問の三割にちかひ八一四二Vが、この種の設問に属する。その他の設問は、あまり多くないが、作品に対する意見、感想を問うもの、主題や構成に関するものなどがある。

現代文教材についてみる。

(1)登場人物の關係や、ものの方、考え方などについての設問

八一〇三V

○各人物の心理描写について考えよ。(文学社・一年・なだれ)  
○最後につうが去って行ったのは、なぜだろか。(三省堂・一年・夕鶴)

(2) 主題に関する設問△二一▽

○この戯曲の主題の美しさはどのような点にあるか。(好学社・二年・夕鶴)

○この劇において、作者が表現しようとしているものは何か。(大修館・二年・わが心高原に)

(3) 戯曲の構成についての設問△二〇▽

○この劇の構成の巧みな点を指摘せよ。(大修館・一年・二十二夜待)

○「ハムレット」全体を読んで、その構成の巧みな点について考えてみよう。(大原・三年・ハムレット)

(4) 作品に対する読者の感想や意見をたずねるもの△一九▽

○この劇で、おもしろいと思ったのはどこか、それはなぜか。(大修館・二年・二十二夜待)

戯曲の場合、場面、場面の展開が大きな意義をもつものである。ここに、構成についての設問が、かなり大きな位置を占めているのは、注目すべきである。

つぎに、古文教材についてみると、ここでも、登場人物に関する設問が最も多い。△四〇▽

(2) 作品の特色、表現の特色△二七▽

○この文章の会話の部分と地の文章とを、表現の上から比較してみよう。(好学社・二年・冥途の飛脚)

○戯曲として能の特色はどんな所にあるか。

(三省堂(土井)三年・景清)

(3) 作品に対する感想や意見をたずねるもの△二五▽

○この曲を読んで、最も感銘の深いところはどこか。描写の美しさ、内容のよさの両面から考えてみよう。(大原・三年・隅田川)

(大原・三年・隅田川)

○特に読者の心を打つのはどの部分か。そこには、どんな気持ちが言い表わされているか。(大修館・三年・冥途の飛脚)

(4) 文体についての設問△二四▽

○謡曲の文章は掛詞、縁語が多い。この曲から、これらを指示し、文章の特色を考えてみよう。(大原・三年・隅田川)

(5) 構成についての設問△二〇▽

○本文の構成を調べ、主題を明らかにしよう。(角川・一年・道中すごろく)

(好学社・二年・清水)

(6) 作者・作品についての研究を求めもの△一七▽

古文教材の場合も、登場人物を中心とした分析を重視しているが、そのほか作品の特色、表現の特色、文体に関するもの、作者、作品の研究などが、現代文教材に比較すると、かなり重視されている。ここでも、古典教材としての一つの特徴があらわれているといえよう。

現代文教材、古文教材をつうじて、いずれも、作品に対する読者の感想、意見などを、たずねる設問が多いことも、注目すべきである。

戯曲教材の全設問傾向を、表に示すと、第八表④のようになる。

以上、文学教材についての設問をみてきたが、いま一度、簡単にまとめてみる。

詩歌教材の場合は、作品の情緒、情景を中心として、日記・隨筆・隨想などの場合は、作者のものの方、考え方や、作品のテーマを中心として、小説、戯曲の場合は、主人公や、登場人物の心理や性格、行動を中心として、というように、教材によって、その作品を理解するための学習の中心は、ちがっている。しかし、いずれの場合にも、文学教材においては、鑑賞や批評が重視されている。現代文教材においては、作品によって、よびさまされた問題意識を、深く追求させようとする傾向もみえている。

古文教材の場合においても、鑑賞、批評の学習が重視されているが、作品を理解するための文法的知識に関するものや、古文の表現の特殊性を理解するための設問、古典を古典として、正しくとらえるための、文学史的設問なども重視されている。

## 第二節 非文学教材における設問

ここで、非文学教材として取り扱うのは、論説文教材（論文・評論文・解説文）、記録・報告文教材、講演（筆記）である。

設問総数 〱三六六

論説文 〱三六五四

記録・報告文 〱五七

講演（筆記） 〱五五

論説文、記録・報告文、講演（筆記）の順に検討をすすめる。

### （一）論説文教材の場合

現代文 〱三四〇六

古文 〱二四八

この教材においては、「ことがら」の要点、作品の主題、論旨についての設問や、その論旨に対する読者の意見、感想を問うものが多い。

現代文教材について、設問数の多いものからあげる。

(1) 「ことがら」の要点の説明を要求する設問 〱一四二八

〇イの音を、「馬声」と表記したのはなぜか。

（好字社・二年・國語の変遷）

〇公的な日録には、どんなものがあるか。また、どうあるべきものか。

（續文堂・一年・日記の意義）

(2) 特定表現の説明、解釈を要求するもの 〱五一〇

〇高村光太郎が、「深い意味での自然主義者」と言われるのは、どんな意味か。

（好字社・二年・「秋の祈り鑑賞」）

〇「ことは信頼しすぎて、言われたことが、そのものだと思ひ込む」とは、どういうことか。

（角川・三年・ことばの正確・不正確）

(3) 学習の内容を、自分の生活と結び、反省したり、考えたりすることを要求する設問 〱二四四

〇数種類の新聞を持ち寄り、同一記事の取扱方を比較研究してみよう。

（文学社・三年上・新聞編集の魔術）

〇日本の文学と西洋の文学と、いづれに心ひかれるかを内省し、その理由を考え、本文と照らしあわせてみよう。

（大修館・三年・西洋文学の魅力）

(4) 学習したことを、実証したり、適用、応用したりすることを、要求する設問 八二一八 V

○ここに述べられたことを、既習の和歌について照らし合わせて検討せよ。  
(大修館・三年・和歌の変遷)

○筆者の文学理論に照らし、「和解」、その他の小説を考察してみよ。  
(大修館・三年・小説の芸術性)

(5) ある「ことごと」について、教科書外の研究を要求するもの

八一六三 V

○本文にあげられた以外に、いろいろな種類の古語や現代語について、その構造を分析してみよ。

(大修館・二年・ことばの研究所)

○この文章にあげられているもの以外で、めいめいの知っている外来語をあげ、その原語を調べてみよう。

(昇龍・一年・外来語の話)

(6) 筆者の性格、ものの見方、考え方などについてたずねるもの

八一〇六 V

○この文に述べられる筆者の独特の考え方は、どういうことか。  
(筑摩・三年・科学について)

○筆者の詩作の立場は、どんな意識を基にしているか。

(筑摩・三年・断崖からの郷愁)

(7) 作品に対する読者の感想や、意見をたずねるもの 八九五 V

○この文章を読んで、どんなことを考えさせられたか。

(筑摩・一年・古典論)

○この文章に見える芸術についてのいくつかの提言のなかで、特に共感をおぼえるものを二つあげ、それについて感想を述べよ。

(昇龍堂・二年・芸術その他)

(8) 文学史的な問題、作品や作者についての研究を要求する設問 八八八 V

○わが国の自然主義運動について調べ、その功罪について研究してみよう。  
(三省堂(土井) 出雲の美)

○本文にとりあげられている日本の文学作品について、作者や、成立や、特色や位置や影響などについて調べてみよう。  
(積文堂・三年・日本の近代小説)

(9) 大意、要旨をたずねるもの 八七一 V

○本文の要旨を述べよ。  
(大修館・二年・漱石と鷗外の文学)

論説文の場合、主題、論旨を、明らかにすることが、重視されている。論説文の諷解は言語の論理的訓練の場として、考えられているように、かなり論理性をもつものである。これらの設問の中にも、主題、論旨を読みとるために、ある「ことごと」に注目して、その要旨を、まとめさせようとする設問が多い。また、その論旨を理解するだけでなく、その文章のどこまでが事実か、どこからが作者の意見であるか、その意見に対して、どう考えるかなど、読者の批判を対象とする設問が多い。また、その論の中の問題をみいだして、自分の身辺のことごとらについて反省したり、研究したりすることを、求めた設問も、重視されている。教材の中で、学んだことがらを、実際に、適用したり、適用したりすることによって、知識を確かなものにしようとするものもある。

ここで、少し意外に思われるのは、論旨を読みとるために、設けられた設問のほとんどが、「ことごと」について、要旨をまとめた「特定表現の説明、解釈」を要求するものに、占められている

ことである。文学教材の場合には、非常に広い領域にわたる設問が設けられていたにもかかわらず、論説文の場合の、内容把握のための具体的な方法の指示が少ない。

古文教材の場合

現代文教材に比して少なく、論説文教材の中で、一割にも満たない。

設問数の多いものから検討する。

(1) 「ことがら」の要点の説明を求めるもの 八五八V

○能における「花」とはどういうことか。

(文学社・二年・花と幽玄)

○本文では、「不易」と「流行」とは、それぞれどういう関係にたつとっているのか。  
(好学社・二年・俳論抄)

(2) 特定表現についての説明、解説を求めるもの 八二九V

○「芸というものは、実と虚との皮膜の間にあるものなり」ということばの内容を、わかりやすく説明してみよ。

(好学社・三年・虚実皮膜論)

○「松の事は松に習へ、竹の事は竹に習へ」とは、どういうことか。また、ここに指摘している習うことの三段階を説明せよ。

(好学社・三年・俳論抄)

(3) 作者のものの見方、考え方に關する設問 八一四V

○「玉かつま」の所論と、「うひやまぶみ」の所論と総合して、宣長の学問に対する態度を、八百字程度にまとめよ。

(東哲・二年・もの学びのすじ)

(4) 段落の要旨、大意をたずねるもの 八一三V

○各段ごとに論旨を、要約してわかりやすく述べよ。

(大修館・一年・俳諧への道)

(5) 登場人物のものの見方、考え方についてたずねるもの 八一三V

○「うづくまる」の項で、芭蕉はどんな心境にいたのかを考えよ。  
(文学社・二年・俳論)

○「柴戸」と「柴の戸」との優劣について、凡兆、去来、芭蕉は、それぞれどう考えたか、また、この話によって、表現に対する芭蕉のどんな態度が知られるか。(好学社・三年・去来抄)  
古文教材の場合、内容をはあくするための設問が、いくぶん具体的になっている。しかし数的にみれば、ほんのわずかである。

設問の全体的傾向を、第八表⑥に記す。

(一) 記録、報告文教材の場合

設問数 八五七V

わずか、五七の設問である。教科書によっては、記録、報告文の全くないものもある。数が少ないので、特に目立った設問傾向はみられないが、その項目だけをあげておく。

(1) 「ことがら」の要点を、まとめることを要求するもの 八一六V

(2) 論旨、内容に対する読者の感想、意見をたずねるもの 八七V

(3) 筆者のものの見方、考え方についてたずねるもの 八六V

(4) 登場人物のものの見方、考え方についてたずねるもの 八四V  
このほか、教材の中に提示された問題について、反省したり、考えたりすることを要求する設問もある。

設問の全体的傾向を、第八表⑥に記す。

(三) 講演、放送 (筆記)

教材が特殊であるためか、設問数も少なく、Ⅷ五五Ⅴにすぎない。

ここでも、「ことがら」の要点をたずねるものが、Ⅷ一一Ⅴで最も多く、ついで、作品に対する読者の意見、感想をきくもの、Ⅷ八Ⅴとなっている。

その他、「特定表現の説明」を要求するもの、「構成」をたずねるものなどがある。

設問の傾向を第八表⑦に記す。

以上のように、非文学教材として、取扱ったもののはほとんどは、論説文で、その他のものは、ほんの一部にすぎない。

これらをとおして考えてみると、現代文教材の場合も、古文教材の場合も、主題、論旨の把握が重視されているが、それを追求するための設問は、「ことがら」の要点をまとめることを、要求したものが、非常に多く、その他、読解のための具体的な設問の形はみあたらない。

現代文教材の場合、主題や要旨を、とらえる設問とともに、それに対する読者の感想や、意見を問うもの、学んだことがらを、生活にとり入れ、広く適用したり、応用したりして、確かなものにするための設問も、重視されている。

古典教材では、現代文教材に比べ、非常に少ない。ここでは、内容理解のために、口語訳や、文語文法に関するものが重視されている。

第三節 漢文教材における設問

設問総数Ⅷ一一三ⅧⅤ

全体的にみると、漢文に含まれる理想的なものを重視する傾向がみえる。また、語句の解釈、口語訳などの設問や、漢文の調子になれるための朗読、暗誦といった設問も多い。

つぎに、設問をあげながら検討したい。

(1) 「ことがら」の要点をたずねるものⅧ一二〇Ⅴ

○君子の過は、どういふ性格のものだといっているか考えよう。

(續文堂・二年・論語下)

○(一)の文によると、老子の思想は、儒教の教えとどう違うか。

(三省堂・三年・道家の思想)

(2) 筆者のものの見方、考え方などを問うものⅧ一一五Ⅴ

○「泰州雜詩」と「登岳陽樓」とで、作者の自然に対する態度には、どんな相違点、共通点があるか。(筑摩・三年・岳陽樓)

○「古之學者為己、今之學者為人」の文において、孔子はどちらの態度を、好ましいと考えているのであろうか。

(昇龍堂・一年・短文草)

○筆者は師弟の関係について、どのように考えているか。

(昇龍・一年・師説)

(3) 特定表現の説明、解釈を要求する設問Ⅷ八五Ⅴ

○「夫道天下之公道也。学天下之公学也」とはなぜか考えよう。

(續文堂・二年・語録)

○「採菊東籬下、悠然見南山」とは、実際どういふ状景か味わおう。

(續文堂・三年・飲酒)

(4)登場人物の關係、ものの見方、考え方などをたずねるもの

△六五V

○項羽はなぜ亭長のことば通りにしなかつたのか考えよう。

(續文堂・二年・四面楚歌)

○「子夜吳歌」について次のことを考えてみよう。

④この詩の主人公はだれか。主人公のどんな心情が詠じられているか。

(筑摩・黄鶴樓)

(5)語句の読み、意味についての設問 △五七V

○次の語句を説明せよ。

○不知<sub>レ</sub>幾<sub>レ</sub>。

(昇龍堂・三年・孟子抄)

○本文を読み味わって、それぞれの故事のいわれを理解し、現代使われている意味との關係を考えてみよう。

(大修館・一年・故事)

(6)口語訳を要求するもの △五七V

○「鼓腹擊壤」の中の歌を、口語訳してみよう。

(續文堂・一年・史伝)

○「先從<sub>レ</sub>魏始」の「死馬且買<sub>レ</sub>之五百金、泥生馬乎」を口語訳にし、実際にどんなことを、意味しているか考えよう。

(續文堂・一年・漢文史伝)

(7)訓読、読みくだしを要求するもの △五六V

○次の語句に送りがなを付し、かつ意味をわかりやすくのべよ。

ア将<sub>レ</sub>罪<sub>レ</sub>之。

(大修館・一年・史伝)

○次の語句を読み下し文に改め、解釈してみよう。

生而有<sub>二</sub>疾惡<sub>一</sub>焉。順<sub>レ</sub>是。故殘賊生而忠信亡焉。

(角川・二年・諸子の思想)

(8)作品に対する読者の感想、意見をたずねるもの △五四V

○「鴻門之会」「四面楚歌」で、いちばん印象の深かつたのは、それぞれどこか。

(筑摩・二年・史記)

○「黄鶴樓」について

この詩を読んで、おもしろいと思われるのはどういう点か。

(三省堂(土井)・二年・詩の鑑賞)

○暗誦や朗読などに関する設問 △四二V

○各詩句を、声を出して朗唱し、暗誦せよ。

(大修館・一年・南枝の梅)

○何回も朗読して、文の調子のよさを、味わってみよう。

(昇龍堂・二年・婦去来の辞)

ついで、構成に関する設問△四〇V、表現の巧みなところ、表現の効果などについての設問△三九V、情緒や情景、時、場面、ふんいきなどに関する設問△三六V、ある「ことから」について、教科書外の研究を求めるもの△三二Vとなっている。

このようにいろいろな方面にわたる設問が、かなり数多く扱われている。これは、漢文教材を、詩文、史伝、論説、語録など、こまかく分類しなかつたため、結果としてはあまりみるべきものが得られなかった。

つぎの機会に、この部分についての再検討をしてみたい。

柴山(安田学園高校教諭)

橋本(大阪府松原中学校教諭)